

大学コンソーシアムひょうご神戸
2024 年度 第 4 回 高大連携委員会
議事次第

日 時：2025 年 2 月 4 日（火）持ち回り開催

回答期限：2025 年 2 月 10 日（月）正午

委 員 校：関西国際大学（委員長校）、神戸親和大学（副委員長校）

関西学院大学、関西学院短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、
神戸松蔭女子学院大学、神戸常盤大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、
園田学園女子大学短期大学部、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、
流通科学大学

計 17 大学

I. 審議事項

1. 2025 年度 高大連携委員会 事業計画・予算（案）について （資料 1）
 - ①大学と高等学校の意見交換会の実施 「ひょうご高校大学コンソーシアム」
 - ②加盟校の魅力を情報発信

標記に関し、中村理事長から各事業委員会に、資料 1-1 のとおり依頼があった。参考資料 1 の理事会からの改善提案をもとに作成した、資料 1-2 「2024 年度事業計画（鑑）案」および「予算案」について審議。

II. 連絡・調整事項

1. 2024 年度 高大連携委員会開催予定と主な議題について
 - 第 5 回委員会 ：2025 年度 事業報告・決算（案）について
メール審議にて 3/10（月）～3/14（金）の期間に実施予定

以上

<資料一覧>

資料 1-1：2025 年度事業計画・予算（案）及び 2024 年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

資料 1-2：2025 年度 高大連携委員会事業計画・予算（案）

（参考資料 1）2024 年度 各事業委員会の事業計画における自己評価・改善提案について

2025 年 1 月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 中村 恵

2025 年度事業計画・予算（案）及び 2024 年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、2025年度事業計画の作成にあたっては、2024年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2025 年度事業計画・予算（案）及び 2024 年度事業報告・決算（案）の作成・提出

(1) 2025 年度事業計画・予算【鑑】（案）

提出期限：2025 年 2 月 14 日（金）正午

(2) 2025 年度事業計画・予算【詳細】（案）

提出期限：2025 年 5 月 8 日（木）正午

※第 6 回理事会(1/29)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。

委員会事業予算（総額）：600 万

(3) 2024 年度事業報告・決算（案）

提出期限：2025 年 3 月 27 日（木）正午

2. 今後のスケジュール

(1) 「2025 年度事業計画・予算（案）」

2025 年 3 月 17 日 第 7 回理事会にて審議・決定

2025 年 6 月（予定） 定時総会にて報告

(2) 「2024 年度事業報告・決算（案）」

2025 年 4 月（予定） 2025 年度第 1 回理事会にて審議、定時総会に上程

2025 年 6 月（予定） 定時総会にて審議・決定

（添付書類）

- ・添付 1) 2024 年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付 2) 2025 年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付 3) 2024 年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

【2025年度 高大連携委員会 事業計画】(案)

委員長校	関西国際大学
副委員長校	神戸親和大学
委員校 (全:17校) ※2024年度 登録大学	関西学院大学、関西学院短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭大学、 神戸常盤大学、頌栄短期大学、園田学園大学、園田学園大学短期大学部、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、 流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題②県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続
取組1	大学と高等学校の意見交換会の実施「ひょうご高校大学コンソーシアム」
達成目標	各年参加校数20校以上
活動指標	意見交換会等の実施/年1回以上
取組2	加盟校の魅力を情報発信
達成目標	各年情報提供先数 高等学校等200校以上
活動指標	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載 アンケート等の実施/年1回以上

目的

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題②】県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続
上記の体制の構築並びに、必要な新規のプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

予算額	課題②県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続		
	取組1	大学と高等学校の意見交換会の実施「ひょうご高校大学コンソーシアム」	300,000円
	取組2	加盟校の魅力を情報発信	200,000円

期待される効果
1.大学と高等学校の意見交換会の実施 兵庫県立高等学校と設置した意見交換の場「ひょうご高校大学コンソーシアム」を継続的に開催していくことにより、県下大学と高校の高大連携をめぐる多くの課題を共有し、県内大学と高校における教育の連携を通じた人材育成の取り組みを促進する。大学と高校教職員の相互理解と人的ネットワークの構築が期待できる。
2. 加盟校の魅力を情報発信 高校並びに教職員・学生に対して、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の魅力を伝えることで、大学での学びに対する理解を深め、進路選択と県内大学への進学率の向上に寄与する。さらには、生徒の大学進学後の学生生活の充実と大学で主体的に学び続ける意欲を高める効果が期待できる。

2025年度 高大連携委員会 事業予算(案)

(単位:円)

		予算	各プログラム 予算				委員会 予算	
			取組1		取組2			
			大学と高等学校の意見交換会の実施 「ひょうご高校大学コンソーシアム」		加盟校の魅力を情報発信			
			内訳		予算額		内訳	
収入	会費収入	600,000		300,000		200,000		100,000
	助成事業収入							
	受託事業収入							
	プログラム収入							
	雑収入							
	戻入金							
	計	600,000	300,000		200,000		100,000	
支出	会議費	20,000	お茶代等	20,000				
	旅費交通費	30,000	交通費	30,000				
	通信運搬費	70,000			通信・郵送費等	50,000	通信運搬費等	20,000
	消耗品費	40,000	消耗品	10,000			消耗品	30,000
	新聞図書費	10,000					参考図書	10,000
	印刷製本費	50,000			チラシ等	50,000		
	光熱水料費	0						
	賃借料	65,000	会場費	35,000			会場費	30,000
	保険料	0						
	謝金	150,000	謝金	150,000				
	租税公課	0						
	支払手数料	5,000	振込手数料	5,000				
	諸会費	10,000					フォーラム等参加費	10,000
	委託費	150,000	HP更新費等	50,000	HP更新費等	100,000		
	人件費	0						
	接待交際費	0						
	支払支援金	0						
	雑費	0						
	計	600,000	300,000		200,000		100,000	

収入－支出	0
-------	---

2024年度事業委員会への改善提案について

※達成目標は中期計画立案時に、活動指標は各年事業計画立案時にそれぞれ策定

①国際交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	4	4	兵庫国際交流会館を拠点に、日本文化、観光、防災、フアンリテーションなどで、留学生を積極的に活動に取り込んでいることについてはさらなるリンクを丁寧に継続するとともに、日本人学生との密着した交流活動の機会を創出し、さらなる内容としてプログラム内容に盛り込むことを期待したい。また学生・留学生主体の企画にも引き続き重点をおき、さらなる内容と質が充実するよう、コーディネート工士をするに期待する。留学生の日本定着を目指すにあたり日本人学生が果たす役割は大きい。英語力苦手な日本人学生にとっても留学生との交流は有益であるため、より視野の広いプログラム展開を期待したい。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中/回測定） ②参加者数 250名以上/年	①94.2% ②参加者数 5562名/3年	参加者数 500名以上/年	参加者数 1552名/年
事業報告②	<加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業> ・学生海外派遣プログラム ・事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム	4	4	連携プログラム数の増加や新たな連携校（明石工業高等専門学校など）が増えているのは評価できる。今後もさらなる連携校を増やすべく、各大学の意見聴取を強化し、他大学の事情にあった連携プログラムを創出し、参加者の多様性の拡大を期待したい。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中/回測定） ②参加者数 10件以上/5年	①98.6% ②プログラム数 11件/3年	プログラム数 2件/年	プログラム件数 6件/年

②学生交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> MILL BE プロジェクト、地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動	2	2	加盟校ならびに行政が有する子育て支援施設や子ども居場所と連携するボランティア活動は、学生のニーズもあり、支援体制を構築できている点は評価できる。また、外部資金を活用して交通費等、学生の経済的負担を軽減できている点も評価したい。ただし、言葉との壁（学校からの移動距離・移動時間等との兼ね合い）において、一度度学生の参加にとどまる傾向があるため、より多くの加盟校学生が参加しやすい事業内容についても検討いただきたい。		参加学生数のべ14名 （申込者28名・参加者11名）	参加団体5団体以上 個人参加15名以上	1団体2名参加 個人参加17名
事業報告②	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> MILL BE プロジェクト、ウィクトリーナ祭典 スポーツビジネスコンテスト	4	2	地元企業・協賛企業との連携プロジェクトとして3年目を迎え、新たに兵庫県が共催に加わるなど、プロジェクトの社会的価値が高まり、学生が地元企業理解や成長機会に本取組が寄与してきた実績を評価したい。同時に、次年度以降の継続については、連携先との協議の上、コンソーシアムとしてよりよい関わり方を模索いただきたい。	参加学生数50名以上	参加学生数のべ82名 （参加者66名）	参加学生のチーム活動/月1回以上 （活動期間中）	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告③	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> MILL BE プロジェクト③兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2次大阪大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドバヒリオン」との連携～	4	3	加盟校の学生たちが元気になる学生交流活動として、2025年「大阪・関西万博」と連動して、当初計画通り、2か年にかけて、事なるお祭りの交流活動にとどまることなく、地域課題の解決も視野に入れて、兵庫の魅力を発見・発信する学生の活動そのものが、兵庫県の魅力向上に寄与した点は評価したい。今後も、加盟校の学生が地域で活躍する姿を国内外に発信機会があれば、取り組んでいただきたい。		参加学生数のべ61名 （参加者31名）		月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告④	<学生発信ブランディング> 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施	2	3	コンソーシアム上で「地域で輝く学生」と題して、各加盟校の特長ある地域活動を通して、学生が地域に貢献する姿をわかりやすく伝え、コンソーシアム加盟校全体の認知度が高まる活動は重要である。次年度も引き続き、広報活動の活性化に取り組んでいただきたい。	情報公開数200取組以上	74取組/3年	各加盟校からの情報提供/年1回以上 情報公開数40取組以上/年	21取組（年内40取組掲載予定）/年
事業報告⑤	<学生発信ブランディング> 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」	3	4	阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして、震災を知らない世代の加盟校学生たちが兵庫県の防災啓発動画を作成する本取組参加は、意義深い活動であると評価できる。次年度は、3校を活用した情報発信活動の実施、また全加盟コンソーシアム研究交流フォーラムにて、加盟校での各取組組みと共に、オールひょうごとして防災・被災後の復興向上に向けて発信いただきたい。	参加加盟校数10校以上/年	加盟校参加数 6校	参加団体1団体以上 個人参加20名以上	個人参加11名

③教育連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	単位互換事業の実施	4	4	教育のICT化や共同開講など、学生への多様な学びの機会の提供について引き続き検討頂きたい。また、興味のある学生に情報が届くよう単位互換制度の認知度向上に向けて、広報について改めて検討頂きたい。	各年開設科目数10科目以上	128科目（18校）/年	送り出し校数・5校/年	11校（61名）/年 ※対面2名、オンライン29名
事業報告②	多様な学修機会の提供	4	4	継続的な加盟校の教育資源の共有と相互連携の取組として、加盟校の公開講座を対面実施以外にもオンライン実施も含めて広く開放し、多様な学生の交流を促進し、学修経験の強化を引き続き図って頂きたい。eラーニングシステムについても、コロナ禍以後、オンライン学習やリメディアル教育など多様なニーズが生まれている。引き続き加盟校に周知を行い、加盟校全体のICTを活用した教育資源向上に期待している。	各年プログラム数件以上	17件（7校）/年	参加者数50名以上/年	参加者数 1684名/年

④キャリア委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	2	4	企業と大学をつなげ、教職員とコンソーシアムの関係を深めた点や、教職員に企業や法律家など、多角的な視点での情報提供ができたのは評価できる。加盟校を卒業した「先輩」が、県内企業に入社したきっかけを語る「先輩インタビュー」は、学生に地元就職を意識させる点で有効といえ、継続したい。1～3月のキャリアイベント集客にも継続するが、次年度以降は、就職活動中の学生に発信機会を磨ける一層の取組に期待したい。	①兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 250名（学生数250名以上、教職員25名以上）以上/5年	各年参加者数 500名以上（学生数450名以上、教職員数50名以上）※事業報告①、②の合計数	参加者数 156名/年（学生64名・教職員92名）	
事業報告②	「尼崎市」大学生等向け職場体験事業	4	4	尼崎市内企業への理解を深めた点、参加学生の満足度が非常に高かった点、自治体との連携が深まった点は評価できる。次年度は、自治体や企業ニーズをさらに踏まえ、日本人だけでなく、留学生も対象にした尼崎市内の職場体験事業を進めたい。当事業で得たノウハウを他の自治体に広めたい。コンソ事業に取り入れたらすると、兵庫県全県のコンソとしてのプレゼンスの向上に繋げたいことを期待する。		参加者数15名以上（事業報告①の達成目標：各年参加者数 500名以上（学生数50名以上、教職員数50名以上）を含む）	参加者数 87名/年（学生64名・教職員23名）	
事業報告③	県内企業・団体等の魅力を情報発信	3	4	「WLB認定企業・表参道企業」「兵庫県異業交流浸透型導入企業」等、客観的な指標を一元化して提議することにより、企業の比較や、企業情報の手配けしやすさを評価したい。「兵庫県異業交流浸透型導入企業」については、産業界、自治体と地元就職促進を目的に始まった取り組みであり、学生に周知させることは意義深い。	情報公開企業・団体数120社以上	153社	企業情報の追加掲載 2種類以上	追加情報掲載 2種類
事業報告④	留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム	4	4	留学生61名が参加の「ひょうご留学生インターンシップ」や、日本人学生と外国人留学生在がペア形式で参加した「国際交流機関リレーインターンシップ」により、多様な環境下での就業体験を提供した点は評価できる。一方で、県内での留学生の就職者数が増加すると、早期離職が課題となっている。留学生在が自身のアイデンティティを活かした就職、定着を目指すこと、また、外国人の職場定着に貢献できる日本人学生を育成することも視野に入れた事業展開を期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加留学生数 250名以上	①100% ②参加留学生数 2944名/3年	参加留学生数 500名以上	参加留学生数 774名/年
事業報告⑤	外国人留学生採用フナストップ支援事業	4	4	ひょうご留学生留学生インターンシップ参加留学生の継続的な支援の場として機能していること、個々の留学生の特性に合わせた丁寧な支援により、内定者が出ていること、留学生の就職に繋がる関係機関とより実質的な連携が出来ていることは、評価できる。今後も、個々の留学生への丁寧な支援、企業の選定ニーズに繋がる丁寧なヒアリングと、多角的な視点での連携先の開拓や関係強化により、留学生の県内企業定着を促進することを期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 250名以上	①80% ②参加者数 214名/3年	参加者数 50名以上	参加者数 74名/年

<自己評価基準>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや回った 1：当初計画を下回った

対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき

⑤高大連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	大学と高等学校の意見交換会の実施「ひょうご高校大学コンソーシアム」	4	4	兵庫県下の大学と高校の連携・接続に関する課題の共有、およびその課題について意見交換が継続的に行われている点については評価できる。引き続き、兵庫県下の高大連携を深め、人材育成の取組促進・人的ネットワークの構築を図るための活動を推進してほしい。	各年参加校数20校以上	参加校数 22校/年	意見交換会等の実施/年1回以上	意見交換会を1回実施
事業報告②	高校の魅力を情報発信	3	4	コンソHPでの情報発信や、県下の高等学校への情報共有など高大連携に関する情報を提供している点については評価できる。今後も継続して、オンラインはもちろん説明会やパンフレットなどのオフラインも併用しながら、高校の教職員・高校生・保護者への、加盟校の情報を発信していただきたい。	各年情報提供先数 高等学校等200校以上	情報提供先数 200校以上/年 (兵庫県立学校長協会・県下高等学校へ の情報提供)	大学コンソーシアムひょうご神戸 ホームページへの情報掲載 アンケート等の実施/年1回以上	コンソHPへの情報掲載1回

⑥FD・SD委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	4	4	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開について、コンソーシアム内で情報共有の仕組みを構築し、通年を通して加盟校教職員の交流機会を提供し、教職員の履修向上に寄与できている点は評価できる。今後も継続的に加盟校のニーズを踏まえたFD・SDへの取組みを進めていただきたい。	各年セミナー5件以上	9件(10校)のFD・SDセミナーを公開/年	参加者数 100人以上/年	参加者数 758人/年
事業報告②	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催	3	4	加盟校に共通する大学教育が直面する課題の課題について、加盟校のニーズを踏まえたセミナーに取り組んでいることは評価できる。FD・SD共通化への施策の検討を含めて、大学が単独で行うよりもコンソーシアムで実施する意義がある活動を推進していただきたい。	各年参加者数50名以上	参加者数 143名/年	開催数 3回以上/年	開催数 1回/年
事業報告③	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催	4	4	近年、重視されている認証評価・IRなどについて、体制作りから実質化まで筑造されている加盟校の現状を踏まえたセミナーを継続的に実施できた点は評価できる。今後も加盟校のニーズを柔軟にとらえ、時宜にあった取組を検討していただきたい。		参加者数 149名/年		開催数 2回(実施予定含む)/年

⑦企画運営委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・リカレント教育の普及促進に向けた取組 ・加盟校のリカレント教育に関する情報発信	3	4	兵庫県からも県内大学におけるリカレント教育の取組促進、機運の醸成がコンソに対して期待される中で、本取組を継続できていることは評価できる。引き続き、先進事例や課題を共有し、加盟校が連携してリカレント教育の普及に寄与いただきたい。	①各年参加者数50名以上の各年10校以上	①2025年3月5日「リカレントフォーラム」開催予定。参加者数は現時点未定 ②28校/年	大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)	①2024年3月5日「リカレントフォーラム」開催予定(1回)
事業報告②	・大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築 ・緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築	4	4	企画運営委員会及び、ひょうご産官学連携協議会等での懇談については、次年度以降も定期的に実施し、産官学の連携体制の強化について、意見交換の場を設けていただきたい。次年度開催の企画大学コンソーシアム研究交流フォーラムに向けては、加盟校自身のコンソが活動への理解を深め、所属意識を高めるから、コンソ活動ならびに加盟校活動を他エリアのコンソ・大学に周知できる場をわくくり出すことに期待している。また緊急時リスクマネジメント体制の構築については、定期的な見直し・改善を行い、より実践的な関係性構築に向け検討を重ねていただきたい。	①大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充 ②緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築	①企画運営委員会、産官学連携協議会、産業界との協議・意見交換及び、企業課題解決プログラムの実施等により地方自治体・企業・地域団体との更なる連携を拡充した。 ③リスクに関する情報連絡会を開催。緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築した	①大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上) ②大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)	①企画運営委員会(原則月1回開催)： ②回実施済(年度内計2回実施予定) 産官学連携協議会：1回実施済(年度内計2回実施予定) 産業界との意見交換会：1回実施済(年度内計2回実施予定) ③リスクに関する情報交換会：1回実施済(11月末時点)
事業報告③	加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進	4	4	事務局運営の効率化・プロセスの可視化・情報管理や共有に関しては、継続的な評価と改善を行い、最適な効率化を図る必要があるため、継続して取り組んでいただきたい。アンケート等で聞き出された課題「コンソの認知度や関心」については適宜、企画運営委員会や各事業委員会等で協議しながら、各取り組みがよりよいものになるよう活かしていただきたい。 また各ワーキングでの課題(全国コンソ、会費、リスクマネジメント・リカレント)について、導き出された解決策を具体的に運用することで、次年度以降のさらなる事業活性化・安定的な運営体制の構築を図っていただきたい。	加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築	コンソHPを活用し加盟校へ情報共有を行った。新たな取り組みとして「加盟校で働く教職員の方へ」のウェブページを新設し、各大学の教職員募集情報の一元化を実施した。 また企画運営委員会にてWGを設置、課題解決に向け議論を深めた。	企画運営委員会等における懇談の実施(年10回以上)	企画運営委員会(原則月1回開催)： ②回実施済(年度内計2回実施予定) (11月末時点)

<自己評価結果>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った

対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき